

今、『1984』を読むと、現代の私たちの社会、
遠くない未来を予言しているように思えてきます。

オーウェルは、なぜ、人々が『1984』のような世界に
行き着いてしまうと想像できたのでしょうか。

監督プロフィール

前田真二郎 Maeda Shinjiro

1969年、大阪府生まれ。岐阜県在住。90年代初頭から、実験映画、ドキュメンタリー、メディアアートなどの領域を横断しながら映像作家として発表を続ける。美術家や音楽家、パフォーマーとの共同制作を積極的に行い、手法は、写真、映像マッピング、ライブ上映、オンライン配信など多岐に渡る。映像レーベル SOL CHORD の監修を務め、DVD出版やWEBムービー・プロジェクトにも力を注ぐ。近年は、映像メディアを「未知を発見する装置」と捉え、作者が撮影した無意識を含む「記録」を、自ら設定した規則に基づいて作品化する方法を実践。情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授。



Mail : maedashinjiro@gmail.com
<https://maedashinjiro.jp/>



Born in Osaka in 1969 and currently lives in Gifu. He has been active as a filmmaker since the beginning of the 1990s, working across fields that include experimental film, documentaries, and media art. He actively collaborates with visual artists, musicians, and performers, using techniques that range widely from photography and image mapping to live projection and online transmission. Serving as the supervising director of the SOL CHORD video

label, he also devotes himself to DVD publishing and WEB movie projects. In recent years, he has treated visual image media as an “instrument for discovering the unknown” and has implemented methods based on self-imposed rules for creating works from documentary material that contains the unconscious as recorded by the filmmaker. He is a professor at the Institute of Advanced Media Arts and Sciences (IAMAS).

撮影行為とアートを結ぶ、映像レーベル SOL CHORD <https://solchord.jp/>



監督のこぼ

『日々“hibi” AUG』は作者が設定した撮影・編集ルールに従って取り組んだ作品だ。毎日撮影した映像を15秒ずつ順番につなげて映画を制作した。撮影内容は主に偶然出会った日常風景で、特定の場所や知人、語りを収録した日もあった。カットのつながりを想像しながら撮影は即興的に行った。本作の目的は作者の生活を正確に記録することではない。映像が事実の集積だとしても、映画内部には現実とは異なるもう一人の作者「前田真二郎」が現れる。その一人称の「まなざし」が映画世界を導く主人公だ。当初、仕事が比較的落ち着いているといった軽い理由から8月を選び、毎年撮影することを決めた。制作を開始すると、日本の8月は、広島と長崎に原爆が投下され、第二次世界大戦が終結した月であり、先祖や故人を迎えるお盆がある特別な月であることを意識するようになった。

制作期間は、リーマンショックが起きた2008年からロシアがウクライナに侵攻した2022年までの15年間。この間、東日本大震災が発生し、総理大臣は何度か交代し、年号は平成から令和に移行し、2020年にはCOVID-19の感染が拡大した。別の観点では、スマホやSNSが社会に浸透した時期と重なる。また、主人公(=作者)は、結婚式を2度挙げ、癌の手術を経験したことに気がつく人もいるかもしれない。この映画は、21世紀初頭の15年間を生きた、ある個人の「まなざし」の記録である。その「まなざし」は、まるで、テロリストの「まなざし」のように見える時もあったのではないかと。観客はスクリーンに映し出される無数の「見たことのあるもの／見たことのないもの」を見つめながら、それらと自分の記憶を重ね合わせるだろう。そして突然忘れていた事柄を思い出すかもしれないし、あるいは人間に備わる「忘却」を実感するかもしれない。映画が観客自身の記憶と結びつき、新たな意味を生み出す瞬間を期待している。

日々“hibi”^{ヒビ、オーガスト}AUG

監督、撮影、編集、録音：前田真二郎

日本 / 2022 / 日本語 / カラー / DCP / 120分 提供：SOL CHORD

